

市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話 045(661)0166

会長就任御挨拶

横浜市仏連会長代行 滝川 覚道

残暑が続いておりますが、会員始め御寺族の皆様、お元気でございましょうか、お伺い申し上げます。平素より市仏連行事に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年度市仏連総会が六月四日に開催され全議案が承認され



ましたが、その直後、市仏連会長森山正城師より、住職引退を理由に会長辞任届が提出されました。この件につき、早速に市仏連役員選考委員並びに市仏連三役合同会議を開催し、協議いたしました。協議の結果辞任の理由から判断し、これを受理し、会則にのっとり残任期間のあいだ、会長職代行を置くことにいたし、現副会長の中から就任するよう要請がありました。

副会長は玄野師と私、滝川が務めて居りますが、玄野師は会報を担当して居ります関係で、思いが

けず不肖私が重責を荷負うことに決定いたしました。

もとより浅学非才、その器ではございませんが、本年度の事業案も既に決定して居りますので、御推挙を受け、お引き受け致します。以上、微力ながら責務を全うすべく努力したいと存じます。

執行部の三役はもとより、常務理事、理事、委員の皆様のご協力と会員皆様のご支援を切にお願い申し上げます。会長代行就任の御挨拶とさせていただきます。

第十九回総会開催す

中区 西 有 寺

平成四年度市仏連第十九回総会は六月四日午後二時から中区大平町西有寺において開催されました。総会次第の順に従いまして先ず開会の言葉を市仏連副会長玄野孝善師よりいただき、続いて市仏連会長森山正城師より挨拶をいただきました。その中で会長は日頃の諸行事に会員諸師より暖い御協力をいただいておりますことに対して感謝と御礼の言葉をのべられ、又平成三年度の事業の中で発足いたしました税務問題並基地問題両委員会が充分活動して会員から提起された諸問題の研究をしっかりと進めていって成果をあげてほしいとの要望もございました。

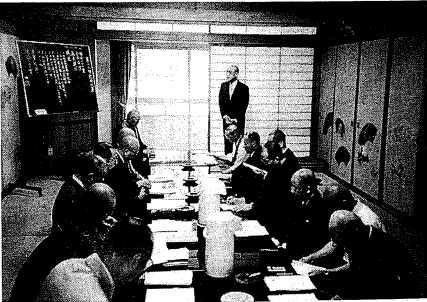


弘続き議長の選出に入り本部一任ということと戸塚区仏教会会長西尾俊雄師が選出されました議長席につかれ議案の審議に入りました。第一号議案の平成三年度事業報告について川上敬吾専務理事が説

明をし、第二号議案の平成三年度決算報告について橋下賢明会計より説明があり、第三号議案の会計監査報告が野沢隆幸監事により発表されました。第四号議案で以上三議案の質疑応答に入り全て異議なく拍手をもって承認されました。続いて第五議案平成四年度事業計画案の説明が専務理事よりなされ、第六号議案平成四年度予算案の説明が会計よりなされました。第七号議案で以上二議案について質疑応答の結果両議案とも原案通り承認可決されました。

第八号議案役員改選の件につき本年度末にて役員任期が満了となりますから役員選考委員を選出

する年にあたります。選考委員の選出はローテーション通り磯子、港北、緑、泉、保土ヶ谷、旭の以上五区仏の会長が選出され就任することに決まりました。第九号議案市仏連主催仏跡参拝旅行の件について本年は成田山新勝寺へ参拝することになり、日帰りバス旅行ですでの多数の参加をいただきましたとの事務局からの要請がなされました。第十号議案で神奈川県宗教法人名簿購入の件が提案され、検討の結果各寺院で一冊ずつ持つことが出来たらよいであろうということが名簿がどれだけあるか県私学宗教課に問合せみることになりました。以上で議案審議はとどけなくなり終了いたしました引続いて来賓祝辞を県仏事務局長本間孝康師より賜り、閉会の言葉を玄野副会長がのべて第十九回総会は無事終了することが出来ました。終了後懇親会を開催いたし午後五時無事了り散会いたしました。



第十七回市仏連の釈尊涅槃會が平成四年二月十一日(火)、金沢区仏教会の第三十二回涅槃會と合同で営まれた。金沢区仏教会の涅槃會当番は昭和五十三年二月に称名寺での開催以来、二度目で、全区仏を一巡して、二巡目に入った。釈尊涅槃會は金沢区寺前の真言宗御室派に属する三療山薬王寺(鹿野融雅住職)を会場に催され、二八〇名ほど参集し、仏陀釈尊に報恩帰依の誠を尽くした。

薬王寺は源範頼公の別荘跡地に建立された古刹で本尊に行基作の薬師如来を祀る。千坪の境内に本堂、庫裡、鐘樓が配置されていて、当日はうららかな陽気に恵まれ、満堂のご来場の参詣者を分けるようにして出仕僧の入堂が始まる。式衆は金沢区仏寺院の各師、副導師は滝川、玄野の市仏副会長、佐伯金沢区仏会長、鹿野会処住職、導師は森山市仏連会長で法要が営まれた。本尊前脇に寺宝の涅槃図(江戸時代作)がかけられ、涅槃団子の供物が三宝に盛られた。総合同会進行役は川上市仏連専務理



事と当区仏宝樹院様である。入退堂には薬王寺婦人部のコーラスで仏讃歌が合唱された。法要中に金沢区仏詠歌講員九〇名によって、

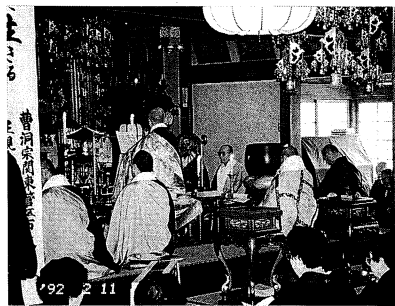
第十七回釈尊涅槃會

金沢区 薬王寺

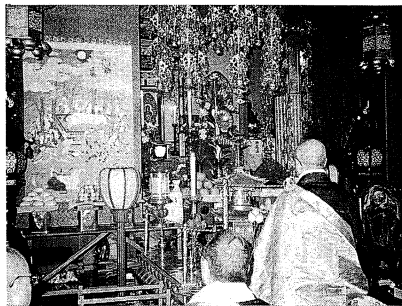


涅槃和讃が一斉奉詠された。導師啓白文、全員観音経誦し焼香。午前十時半、滝川市仏連副会長の開式が始まり、ねんごろな仏恩報謝の法要に三十分を法悦境に遊ぶ

が如きにすぎず。式典は森山市仏連会長、宇野釈尊奉讃會々長、佐伯金沢区仏会長、地元選出県議員の紹介があり、来賓代表で県仏



会長の福永師の各挨拶があり、講師の善浪鉄心老師の紹介がされた。老師は保土ヶ谷区正観寺住職で曹洞宗大本山の特派布教師で教悔師もされ、地域の福祉向上に貢献さ



れている。丸やかな話法に笑い声をあげ、また聞き惚れて四十五分間があつという間に過ぎた。

法話後に橋下市仏連會計より香資芳名の発表御礼があり、玄野市仏連副会長が「寺で照るてる帰りはくもり、家に着けば雨が降る」との言葉で閉会の辞とされた。尾崎市釈尊奉讃會副会長が会員募集の挨拶をされ、十二時三〇分に川上師が御礼と散会の宣言をされ終了。客殿で昼食懇親会をした。金沢区仏二十八ヶ寺の僧侶、仏



教婦人会、ご詠歌講中、奉讃會、薬王寺住職、寺族、総代世話人、婦人部の方々には準備、運営、接待の面でお世話になり感謝し、参詣各区仏の諸師、檀信徒等、参加者全員に厚く御礼申し上げます。

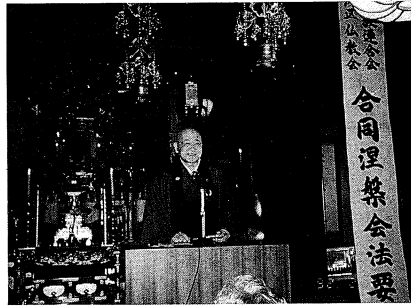


写真説明

上から①薬王寺本堂の本堂内正面
②森山会長④導師啓白文誦読⑤内陣⑥出仕僧退堂の寺宝涅槃図⑦金沢区詠歌講員⑧満坐一同誦経中。

法話「安らかに生きる」

講師 善浪鉄心老師



善浪です。この金沢の地は胸の療養で若草病院へ入院したので、思い出深い。病氣の見本市みたいな身体であるが、命あって生きている。ありがたいと思う。

火葬場でタクシーの運転手さんから質問された。彼氏曰く、以前は菊毘帰りの車中で喪主さんらのなぐさめ、はげましになればと思いい、声をかけた。ところが最近は言葉をかけないことにした。黙っていても私の心と遺族の心が通いあっている。会話をしているような感じになっっている。「そんな態度や心境でも、ご不幸な人に対して、不人情にはならないか」との質問であった。私は「あなたは素晴らしいところ、お釈迦様の話をした。お釈迦様は大勢のお弟子さんを前にされて、自分の法を誰に継がせるかと考えてしまった。試験にたとえ

れば、皆、満点の成績の立派な人達であろうから。壇上で側にあった花を一輪挿頭して捻じた。一本の花を手にとって示した。すると摩訶迦葉という人が、その意味を理解して「こりほほえんだ。そこでお釈迦さまは「マカカショウよ、汝に付属す」と云う。あなたに私の法を継がせよう。そこまですると言葉でもなく、文字でもない。本当に心から心に伝わる、以心伝心。黙っていても伝わる。そのような言葉を通り越した、会話はなくても心と心が通いあうまで融けあっている風に、師と弟子、夫婦関係などが成ったら素敵である。心から心に伝わった仏さまの教えが代々代々の祖師方の心から心に伝わる。それを一器の水を一器に移すが如しと申す。お水をつぐ、一滴も零さず、残さずに注ぐというように、今日まで来ている。ですから私共は皆、お釈迦様の信心をいただいて今日を生きている訳である。お葬式の時に方丈が引導を渡すと云われる。それは自分が仏様になっっている。お釈迦様が渡してくれた引導と同じ意味合いを持っていて、皆もお釈迦様になれるよと悟す。そのお釈迦様もやはり生老病死の肉体を持つている人間で、八十歳、二月十五日にクシナガラ沙羅双樹の間で涅槃に入られた。私共と同じで、両親の子として生れ、後にヤ

ソダラ姫と結婚し、ラゴラという男子ができ、二十九歳で出家をした。六年間の修行の後に三十五歳で成道、悟りを開かれた。それから四十五年間に諸国を説法されて八十歳の二月十五日に入滅され、そのような一代記はご存じと思うが、今日の涅槃会は「迦葉尊者、靈山にして捨華微笑の時、すでに正法眼蔵、涅槃妙心に伝ふ」という大事な、悉皆成仏の仏法が心から心に伝わって、お釈迦様がおられますよ、それは皆様自身の自覚にかかっているということを知って貰う為集っているのです。私の寺の近くに白寿荘という老人ホームがある。入居のおじいちゃんに「歳に不足なし、ポックリと苦しまず、後の心配が全くない、このようにして亡くなられた人の枕元へ行き、おめでどうと云うのか」との質問を、大勢の前で法話をしている時に受けた。回答に困った時に、眼前にチラチラと母の顔が浮かんだ。五十四歳の時に脳いっ血で倒れて二十六年間も不自由な体で病床にあって、八十歳で亡くなった。その母親が元氣な頃、三ヶ月間寝たきりの姑が亡くなった。八十六歳で死んだ時に手を合せてやりながら「おはあちゃん、長い間、本当にありがとうございました」という光景が「おめでどうではない。感謝と涙だよ」と答えた。死んでもから子供の上を守ってくれんと父母恩重に書いてあるが、実感したのは始めて、ありがたくて合

掌した
果して人生は数学のように割り切れるか。赤ちゃんが生れたという事は、そのまま死ぬことにながる、はっきりしている。生者必滅である。では結婚式、新郎新婦が指輪交換など幸福そうだが、その時に会者定離であな方も、何年も経たないで離れるんだね。また、この赤ちゃんも必ず死ぬんだねと言ったとたんに、つまみ出されますよ。しかし、死ぬことがわかっていて、離れることがわかっていて、どうしておめでどうと云うのか。割り切れないところに人生がある。明日がわからない、自分で自分の死ぬのが分からないからこそ笑顔があり、しあわせなのかも知れない。
花は紅、柳は緑、真面目と云う。その赤い花が赤く見えますか、青い柳が青く見えますか。赤い花が赤く見え、青い柳が青く見える。当り前のこと、肉眼で見えるから、そう見える。心の眼で見えますか。たとえば親友が出世し、自分が部下になる。隣家が新築をし、我が家は修繕もままならない古家屋に住む。人の喜びを素直に喜べますか。自分が先に役付きになり、友人は部下である。その時に有頂天にならず、人の悲しみを悲しみとして受けいられるか。そのことこそ花は紅、柳は緑という。すなおに見る、受け入れることを邪魔しているのが自分の心なのだ。道元禪師は永平広録に「自身の心がきれいだから、全てのものが美しく見える」と書かれた。「皆様

の心がごやかだから家の中がごやか、自心が豊かだから社会を平和でしあわせにする。全て自分から出発する。生れた時から持っているきれいな心を忘れないで、目ざめていただきたい。」
お孫さんや幼児のしつけの役はお年寄りなんです。食事の時に手を合せていただきますという習慣を教えて下さい。しつけのものがしつけである。お孫さん達の人柄づくり、人と成るための積み重ねにおじいちゃん、おばあちゃんの愛情ある一言が益になるはず。積専のお心の実践をお願いする。自分のまわりの一人暮らしや寝たきりの老人などに暖かい手をさし、べて下さい。
人間だれしも、ぼっくりと苦しまず、下の世話にならずに死にたいとの三つを念願している。しかし、そのようにお迎えできる人はごく少ない。越後の良寛さんは、美人の貞心尼という女友達に死に水を取ってもらう。享年七十四歳。辞世句「裏をみせ表をみせて散る紅葉」。人間は誰れでも裏を見せたくない。良いところだけを見過してお迎えをいただきたいなあ。だけれどそうではない。裏を見せ、また表も見せ、一切合切お世話になってお迎えをいただくのが人間の姿。実相と申して本当の姿です。もしも寝こんだ時には、この言葉を思い出して下さい。だからこそ近所の休んでいる、さびしく暮らしている老人に暖かい心づかいをするのが仏教徒の実践である。
(文責 備前)

第九回横浜市仏教連合会の春の参拝旅行は成田山詣でと潮来のあやめ見物であった。平成四年六月十六日(火)は好天に恵まれ、汗ばむ暑い一日となった。参加者は二十五ヶ寺住職、寺族、檀信徒等合計二二〇名位であった。横浜の各集合地を早朝に出発した五台のバスの合流地点は東関東自動道の酒々井パーキング・エリアで、朝の九時前後に勢揃いし出発。

成田山新勝寺の大本堂前でバス毎に記念写真を撮ったのが十時前後。光輪閣の四階の四八〇畳敷大広間で茶菓の接待を受け、成田山の布教師僧より法話を聴かせていただき、大本堂へ移動したのが十時四〇分頃。そこで、森山正城市仏連会長を導師として、団参一同が般若心経を唱和し法楽をささげた。十一時の御護摩修行を拝受。鶴見照碩貫首と式衆十名が入堂し、理趣経、九条錫杖経、不動経、慈悲呪が太鼓の伴奏で早い調子で読経をされた。貫首導師が護摩秘法を修されて火炎が高く燃えあがり堂内はうす暗く、ご本尊の成田のお不動さまも判然とは見えない。しかし、信者の唱へる「ノーマクサンマンダーバーザラダン、センダーマーカロジャダー、ソワタヤ、ウンタラターカンマン」不動明王ご真言は一段と高音の張り声となり、祈禱が最高潮に達する。ごま壇の炎に守り札や衣服、バツク、持物がかざされ、各心願の成就祈念がこらされる。み仏のご加護を感得する聖なるひと時をすごした。



春の仏跡参拝

成田山へ詣る

成田山新勝寺は真言宗智山派に属す。天慶三年(九四〇)平将門の乱をおさめるため、京都の神護寺から本尊の不動明王を寛朝大僧



正がこの地に移し祀ったのが起りという古刹である。現在地は千葉県成田市成田一―である。境内およそ六万坪。江戸時代の元禄元年(一七〇〇)に照範が住職とな

つてから、成田不動尊信仰が盛んとなる。歌舞伎の初代団十郎が不動尊ご利益を取り入れた芝居を上演するようになり、江戸庶民の信

仰をあつめ、成田詣は物見遊山と兼て隆盛を極めていった。お不動さまは右手に剣を持ち、左手に繡索(けんさく)をもって、磐石の上に座

るか立っていて、恐ろしいお顔をしている仏さまである。人間の煩惱を智慧の火で焼き浄め、正しく判断し、真実の自己にめざめさせ、本当の人間らしさを発揮させる功德を不動尊護摩を修することにうっていただけると法話があった。

十一時半より十二時半まで、門前の食堂で昼食休憩をとる。土産品はてっぽう漬けや羊かんが古くから知られている。

それから、五〇〇種一〇〇万株が開花する。潮来のあやめをバスの中より見物し、利根川水系の佐原市の市立水生植物園を訪ねた。植物園の規模は六二五三平方メートルで、ショウブ、アヤメの花盛りで、ちょうど良い時季に来られたと一同感激顔。広い園内を歩き回ったり、舟遊びをし川風に吹かれたりして、ショウブ、アヤメの花をめぐることに堪能。花ショウブの株苗を買う人が多かった。

三時頃水生植物園を後にし習志野インターで川上専務理事と玄野副会長が散会の挨拶をし、バス毎に帰路についた。横浜各地到着は約五時半から六時頃であった。

一号車は長昌寺、松蔭寺、海照寺、金竜院、福聚寺の四十九名。
 二号車は保福寺、東照寺、天然寺、西園寺、正覚院、常真寺、慈音寺、新善光寺、弘誓院、円定寺、福聚院の四十九名。三号車は緑区の福泉寺、四十四名。寿号車は宝蔵寺、善昌寺、徳善寺、西福寺、長天寺、妙光寺の三十六名、そして五号車は、龍長院、福泉寺の四十三名。次回もぜひご参加のほどを。

横浜市市仏教連合会平成3年度取支計算書

総括表 収支差表 入出引額 金額 1877551 円 1755296 円 122455 円

(自 3年4月1日 至 4年3月31日)

Table with columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減 △. Rows include ①会費収入, 1. 会費, ②雑部金, ③前年度繰越金, and 取入合計.

監査の結果不備ない事を認めます。 平成4年5月24日 監査 竹内隆幸

Table with columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減 △. Rows include ①総務費, ②需要費, ③事業費, ④助成金・負担金, ⑤雑支出金, ⑥予備費, and 合計.

次年度繰越金 122455 円 平成4年5月24日

上記の通り取支決算書を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 森山正城 会計 橋下賢明

横浜市市仏教連合会平成4年度歳入歳出予算書

総括表 歳入歳出差表 金額 2089455 円 2089455 円 0 円

(自 4年4月1日 至 5年3月31日)

Table with columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差引増減 △. Rows include ①会費収入, 1. 会費, ②雑部金, ③前年度繰越金, and 合計.

Table with columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差引増減 △. Rows include ①総務費, ②需要費, ③事業費, ④助成金・負担金, ⑤雑支出金, ⑥予備費, and 合計.

平成4年 月 日

上記の通り歳入歳出の予算案を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 森山正城 会計 橋下賢明

支部だより

保土ヶ谷・旭区

四月九日、上屋川・東光寺において区仏総会、引続き区仏教奉讃会との共催の『花まつり』を勤修。その後、奉讃会総会。本年は区仏役員・奉讃会役員改選の年に当たっており、両総会でそれぞれ新役員を担う若い副任職方に、仏教会の現状を知ってもらおうと共に、新しい時代感覚をとり入れた区仏活動を進めるため、会則に「書記若干名を置くことができる」の一項を設けた。若い世代の活躍を大いに期待したい。

四月十四日、旭区鶴ヶ峰本町の薬王寺新本堂の落慶法要と任職普山式が挙行された。住職は上屋川・東光寺任職志村輪孝師の長男輪彦師。当仏教会にとって頼もしい住職の誕生である。

四月十九日、第一回区仏役員会（正円寺）。今期の区仏運営についての基本事項、本年度の活動方針や年間の事業について審議。若手の「書記」も参加、積極的な発言があった。

五月七日、春の仏蹟参拝旅行。坂東三十番札所高蔵寺・三十三番札所那古寺を訪ねたが、流石に三十年以上の歴史をもつ当区の行事だけに、今回も約三百名の参加があった。高蔵寺御住職の軽妙洒落な法話を聴聞。東京湾口・房総海岸の風光を楽しんだ一日であった。六月五日、県慰霊堂出仕当番で七

名が出動。当日は保土ヶ谷バイパスでの事故のため、法要開始時刻が大幅に遅れたが、満堂の参列者と共に戦没者諸霊に対し「同じ過ちはくりかえしませぬ」の誓いを新たにされた。

六月十九日、今朝、特に区仏顧問就任をお願いした仏教会長経験者の先輩方と、仏教会・奉讃会役員との懇親会を関内の「わかかな」で開催。十七名出席。和やかな団覧のうちに種々貴重な御助言を賜ることができ、有意義な一夕であった。

六月二十二日、恒例の岡山重忠公慰霊法要が新装なった薬王寺本堂で厳粛に修行。旭区寺院任職方協力出仕。

今後の予定行事としては、
 (一)第三回保土ヶ谷宿場まつり(十月三・四日)への協力。
 (二)十一月五日 秋の仏蹟参拝旅行
 (三)十二月九日 成道会
 (四)十二月二十一日 歳末托鉢

泉 区

去る四月二十九日(みどりの日)和泉町密蔵院に於て、第三十五世の普山式が挙行された。密蔵院は高野山真言宗で区内では古い寺の一つであり、昨年一月の先住遷化に伴い今回の式となった。

当日は好天にも恵まれ、多くの檀信徒・法類・法縁寺院の見守る中古式にのっとり、檀家総代宅より寺まで、練り供養が行なわれた。御詠歌衆の唱える御詠歌に合わせ稚児・職衆・檀信徒と総勢約二百人の行列が続き、山門に至り庭の

儀式の後、本堂内で辞令伝達、報告法要の儀式が勤修された。環状4号線の計画、着工によりやがては一変してしまおうであろう豊かな田園風景や竹林を抜ける風の中あふれるばかりの見学、参詣者の見守る中での行列は、厳粛のうちに壮観であった。

港 北 区

港北仏教会の行事の予定を申し上げます。花まつり、税務研修会、花火大会、灯籠流し、懇親会等よろしくご協力をお願い致します。

私儀、今般はからず平成四年六月より、仏教会長の大任を拝命致しました。港北区茅ヶ崎正覚寺住職の八木良純です。もとより浅学非才ではありますが、区内の諸導師のご教導を拝し、仏教会長として重責を全うすべく努力する所存ですので、益々のご支援の程お願い申し上げます。

就任して始めての行事として、花火大会、灯籠流し供養を修行いたしましたところ、一千灯余の灯籠が鶴見川の水面に、区仏のご寺院の諸大徳の読経の中にゆらぎつつ諸精霊の霊安かれと水面に映える内に終了することができました。

ご随喜の諸導師に厚くお礼を申し上げます。九月下旬には、市仏の参拝旅行が計画されていますので皆様多数のご参加をお願い申し上げます。十二月は、懇親会を開催して、各寺院相互の親睦をはかりたいと存じます。

今後とも、諸導師各位のご指導とご協力を切にお願い申し上げます。

合 章 栄 区

臨濟宗円覚寺派正安寺縁起
 当山は山号を長沼山、寺号を正安寺と号し、臨濟宗円覚寺の末寺でございます。開山は円覚寺十一世南山土雲禪師、開基は長沼五郎宗政、本尊は阿弥陀三尊像です。

その昔は、能満寺という天台宗の寺でしたが、三代執権北条泰時の命に依る鎌倉の八幡宮寺に於ての蔵経校合(一二三二年)に向かう途中、親鸞聖人がこの寺に宿を取りました。その折に、当時の住僧月応は、親鸞聖人の学徳にうたれ、その弟子となり、天台宗から浄土真宗に改宗したと伝えられて居ります。

聖人は、ここに七日間滞在し、阿弥陀三尊像を彫られたと云われ、現在の御本尊の阿弥陀如来像の袖には「善信」と聖人の別名が刻まれ、花押が記されて居ります。

その後、三百年余の間、浄土真宗の寺院として親鸞聖人の教義を伝えて参りましたが、永禄四年(一五六一)北条氏康による真宗寺院の弾圧の際、時の住持海弁房は、難を逃れる為、寺檀もろとも末寺にしてみらう様、鎌倉円覚寺に願ひ出て、円覚寺よりの認可を得て、浄土真宗能満寺は、円覚寺末正安寺と改称し、海弁房は禅僧となりました。

この様な事から、臨濟宗の寺院としては珍しく、阿弥陀如来を御本尊とし、儀式・期日は多少異なりますが、真宗寺院の法要である

「報恩講」を勤修して居ります。真宗の寺院・教団との係りも多く、報恩講は今でこそ正安寺独自の法要ですが、昭和三十年代前半までは、近隣の真宗寺院の僧侶が主になって、法要を営んで居りました。また、京都西本願寺門主が幕府に参向の折、正安寺に立ち寄り、明和六年(一七六九)には金子千疋、天保九年(一八三八)には銀一枚を寄進したと云う寄進札が現存して居ります。山門前には寛政四年(一七九二)に、江戸築地本願寺講中に依る、親鸞聖人御縁の寺を示す石碑が在り、永い歴史を物語って居ます。

近年、この周辺も急激な宅造開発・道路拡張等で、昔の趣を失いつつありますが、境内には、横浜市の名木古木に指定された、親鸞聖人御手植えと伝わる、いぬまきを初め、百日紅の古木等の記念樹を残し、また、数多くの茶花も、四季折々に美しい花を咲かせてくれます。

年中行事としては、元日に年始法要、四月八日・降誕会、四月十日・報恩講、八月十七日・施餓鬼会を行い、報恩講には年に一度、本尊阿弥陀如来を御開帳して居ります。

栄区長沼町六三六番地
 正安寺住職 小林誠道

お 願 い

今号の支部だよりは五区からいただいた。ありがとうございます。各諸大徳も協力して、記事、写真を積極的に寄せて下さい。

支部だより

西 区



も御座居ました、を添えて、西区よりの支部だよりと致します。

慶讃儀
 西区仏教同聚会 八宗和合四旬年奉行衆善修花祭 地域旗旗永保伝

第八回秋の仏跡参拝

今秋は東北へ足を向け、「奥の細道」を訪ねる。「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり・・・」の芭蕉翁の句を各地に訪ね、また『みちのく』の風物に親しみ、その歴史、文化に接したい。また東北の秋は早く訪れ紅葉に会うこともできようかと思う。どうか同行の皆様が多数ご参加下さるよう御案内を申し上げます。

期日 平成四年九月二十九日
 ～十月一日

会費 五九〇〇円也
 天台宗名刹参拝の旅と銘打って、全行程バス旅行である。

当区仏教会毎年の行事の一つである『花まつり』も、今年は第四次と相成りました。

平成四年四月二日、円満寺靈殿を会場として、題目衆、稚児、式衆、導師が久保町教会より行列、午後二時入場、西郊良光円満寺住職の導師の許、慶讃法要を厳修致しました。

円定寺住職蟹沢良元区仏会長の慶讃文、式衆一同の読経、権仏の後、区仏寺院願成寺利生寺各園児のお遊戯奉納を得まして、来賓の森山正城市仏教会長様のお祝辞と法話を拝聴致し、勸行寺住職都築哲信区仏副会長の挨拶を以て閉会と成りました。

区仏寺院並に檀信徒各位の御協力にて、盛会裡に無事円成致しました事に厚く御礼申し上げ、慶讃文冒頭の偈と、記念写真(諸役の関係で撮影に参加出来なかった方

事務日誌

- 4・2・5 県慰霊堂出仕 金沢区仏
- 4・2・7 涅槃会最終打合せ 於葉王寺

- 4・2・10 会報34号発行
- 4・2・11 第17回涅槃会 於葉王寺 金沢区仏当番
- 4・2・23 市仏連発 墓地税務委員会開催案内
- 4・3・15 墓地税務両委員会第1回開催 於福聚寺
- 4・4・9 県慰霊堂出仕 中区
- 4・4・15 市仏連発 墓地税務両委員会への問題提案依頼
- 4・4・20 市仏連発 総会案内 状発送
- 4・5・12 市仏連発 理事会案内
- 4・6・4 理事会 於西有寺
- 4・6・4 第19回総会 於西有寺
- 4・6・8 市仏連発 三役選挙委員会合同会議開催案内
- 4・6・16 第9回春の仏跡参拝実施 千葉方面
- 4・6・23 三役選挙委員会合同会議 於四川飯店
- 4・9・3 三役会 於海照寺
- 4・9・11 会報35号編集

税務・墓地委員会

平成四年三月十五日、午後五時に福聚寺において、税務、墓地問題の専門委員会が合同で開催された。新メンバーでの再発足、初会合には遠藤弁護士もかけつけられ、十九名が出席、熱心に意見を交わした。各寺院に、今関心をもちていること、かかえている問題、両委員会への期待、要望などをアンケートを送り、返事を貰い、それに基づき、検討を加えて、益になる情報を会員に提供できるように図る。年二回ほど委員会を開く。平成五年度には委員会として事業計画と予算を提出の方向でいきたい。

県慰霊堂奉仕当番

- 4・10・5 鶴見区仏教会
- 4・11・5 戸塚区仏教会
- 5・2・5 泉区仏教会
- 5・4・5 栄区仏教会
- 5・6・5 瀬谷区仏教会
- 5・10・5 緑区仏教会
- 5・11・5 南・港南区仏教会

区仏役員名簿

- | | | |
|---------|------|------|
| 会長 | 関水宗孝 | 東泉寺 |
| 副会長 | 橋本良修 | 長福寺 |
| 会計書記 | 石田征史 | 永明寺 |
| 理事 | 丸地良信 | 宝心寺 |
| 〃 | 栗田紹神 | 普光寺 |
| 監事 | 浅井玄哲 | 本興寺 |
| 〃 | 大橋俊雄 | 西林寺 |
| 顧問 | 香川隆善 | 中田寺 |
| 磯子区 | | |
| 会長 | 滝川覚道 | 海照寺 |
| 副会長 | 荻部義光 | 阿弥陀寺 |
| 会計 | 鷲雄興勝 | 大聖院 |
| 港北区 | | |
| 会長 | 八木良純 | 正覚寺 |
| 保土ヶ谷・旭区 | | |
| 会長 | 楠 正舜 | 正円寺 |
| 副会長 | 吉川瑞浩 | 三仏寺 |

編集後記

◎森山正城師の会長勇退は突然のことだ驚いた。住職退任が理由なので止むを得ない。健康を何んとか回復され、よく市仏連会会長を務められ、ご指導を賜ったこと、誠に良かった、ありがたかった。顧問として、会の発展を見守っていただきたい。森山師のご健勝、ご長寿を祈念申し上げ、感謝の意とする。

◎会長代行に就任された滝川覚道師は九月三日、三役会を自坊の磯子区海照寺に招集され、市仏連行事に遺漏がないようにとの考えで早速の勉強会となった。その責任感と配慮には頭がさがる。

◎墓地・税務問題で会員にアンケートを取ったところ、関心が高くていろいろと書かれ、送られてきた。両委員会を検討して説明がつくものをQ&Aの形式で、会報誌上に毎月一問一答、つつ掲載すれば、皆様の期待に少しでも沿うことになるのは玄野編集長の提案である。

◎八月二十日すぎから雨らしい雨が降らず、残暑が殊のほか厳しく、ツツジやサツキなどの根の浅い植木が枯れている。台風十七号の接近に望みをかけたが、それとしまい期待の雨は降らずじまい。仲秋の名月も見ずに当号編集集中。

- 副会長 細川秀純 金剛寺
- 庶務 渡井奎一 長見寺
- 会計 西村悦次 随流院
- 監査 石井亮敬 妙蓮寺
- 〃 中島旭明 天徳院

思い出

成田山新勝寺を参拝して

第9回春の仏跡参拝旅行

平成4年6月16日



一
号
車



二
号
車



三
号
車



寿
号
車



五
号
車